

ワクワク待ち遠しい春

予定している但馬牛博物館リニューアル工事に残された時間は、あと1か月ほどになってしまった。オリンピックのスケート選手なら、最終コーナーを回ってラストスパートといったところだろう。

展示室の中央に置き、プロジェクションマッピングのクリーンにもなる、但馬牛のゴッドファーザー「田尻」の巨大モニメントを作つて、工場に行つてきた。モニメントは下地ができる段階だったが、その大きさに目を見張った。

体の前半分が大きく、お尻

春一番が吹いたといふのに、牧場公園はまだ雪を被り、春はまだ遠そつだ。

か小さい「田尻」の特徴はよく表している。しかしことなく現代的な姿をしているようでもある。「田尻」の写真は真横から撮つたものしかな

く、彼の子孫である畜産技術センターの種雄牛たちにモザルになつてもらつた。ひとするとそのせいかも知れない。でも十分インパクトはありました。

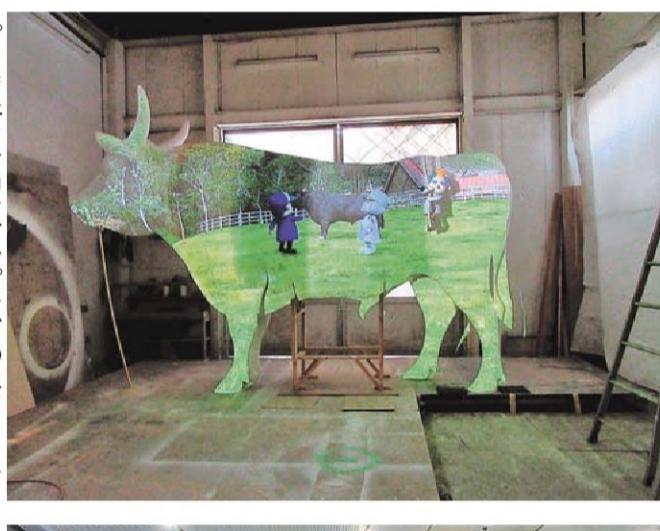
プロジェクトを見た。待機像。その巨大な「田尻」が花が舞う中に立つ。小鳥が飛び立ち、尻尾を振つて虫を追

う。「尻尾の動き方ががらしない」と注文すると、すぐ修正し、牛の尻尾の動きになた。  
プロジェクトマッピングを見るのは初めてだが、映像技術の進化に驚いた。但馬牛博物館では、この「田尻」に映し出す映像で、但馬牛のことを紹介する仕掛けだ。  
博物館の建物改修工事はほ

ば終わり、天井の高い、広い  
会議室のようだった部屋に壁  
面パネルが設置されると、黒  
示室らしくなった。「でき  
きたなア」と思い、何故か嬉  
しくなる。

そして頭の中で、「田尻

の巨大モニメントを置き、骨格標本や剥製、展示テープで  
ルを配置してみる。するとた  
んだか狭く感じ、「大丈夫か  
ア」と不安となる。そんな



プロジェクトショットマッピングのスクリーンにもなる「田尻」の巨大モニュメント

展示物を作る作業が進む但馬牛博物館の  
展示室

■筆者プロフィル■  
わたなべ・ひろなお  
1954年、新温泉町浜  
反出身。県職員として  
畜産行政に長年携わっ  
てきた。県立但馬牧場  
公園「但馬牛博物館」  
館長

孫を見る爺さんみたいな自分に気づき、慌てて首を振る。展示物を作る作業も大詰めになつた。展示パネルや説明ボードの記述チェックなど、老眼が進み、集中力の低下を感じ始めたわが身には、少くつらい作業が増えてきた。それでも多くの人たちに協力していただき、アイデアや意見をもらつて、形になつていくのが楽しく、ワクワクする。春が待ち遠しい今日この頃だ。

ぼ終わり、天井の高い、広い  
会議室のようだった部屋に壁  
面パネルが設置されると、黒  
示室らしくなった。「でき  
きたなア」と思い、何故か嬉  
しくなる。

Digitized by srujanika@gmail.com

(C) 新日本海新聞社 無断複製・転載を禁じます